

健康教育 (禁煙教育)

○栗畑亜紀子、今中正美、石渡尚子、

本間小枝子、道本千衣子

(跡見学園女大短大)

目的：喫煙は、本人のみならず周囲の人々の健康へも影響を及ぼすということから禁煙が叫ばれているにもかかわらず、20代女性の喫煙率の上昇が顕著である。そこで、すでに喫煙している者には喫煙習慣をなくすよう、また非喫煙者からは新たな喫煙者を生み出さないような教育をするために、喫煙に対する女子学生の実態調査を行った。

方法：本学家政科1, 2年生を対象に喫煙経験、禁煙、健康への影響、禁煙教育などについてアンケート調査を行った。1年生に関しては、入学当初喫煙教育の場を設け、その後追跡調査も行い比較した。調査は、1年生については1998年4月と12月、2年生に関しては1998年7月に行った。

結果：①80%以上が高等学校卒業までに何らかの禁煙教育を受けており、それらの教育後の感想は、「絶対に喫煙しない」「マナーを守って欲しい」が50%以上を占めた。

②93%以上が喫煙は健康に有害だと知っていた。さらに、喫煙による疾病の認識度は、肺ガンのように98%以上のものもあったが、胃潰瘍、狭心症など低いものもあった。

③喫煙者は全体の18.2%であった。喫煙開始時期は、半数以上が高校時代であった。また、約30%は短大入学後であった。喫煙のきっかけは、半数が「なんとなく」と回答した。喫煙者の80%以上は禁煙したいと思ひ、そのうち75%以上が主として「健康のため」に禁煙を試みたが、友人の喫煙につられたり、習慣になっていたりして禁煙に失敗していた。また、喫煙経験のある学生の父母の喫煙率は、喫煙経験のない学生の父母の喫煙率よりも高い傾向にあった。